

待ちに待った給食
黒パン ツナサラダ
ハニーマスタードチキン
ウインナースープ

ほぼ日刊 Cカラット

第725号

神町中学校 夢色通信社
令和2年9月29日

新人戦を戦ってきた1・2年生は、何を感じ、何を学んできたのか！

新人戦を振り返って 1



日々の努力とあきらめない気持ち、みんなが一丸となり先生がいつも言っていた「つなぐ剣道」ができたことが、良い成績を収めることができた要因だと思う。県北大会まで時間は限られているので、各人が一層の技術の向上に努め、自分のクセを直し、チームの「つなぐ力」をさらに高めていきたい。(剣道部部長 安藤翔生)

コロナの影響で練習量が少なくなっていたが、積極的に技をかけることができた。柔道部みんなではめ合ったり励まし合ったことがよかった。次の大会に向けて技を磨き直して、怖がらずに相手に立ち向かい、鍛えた技で相手を投げられるようにしたい。(柔道部部長 加藤暖)

新人戦2連覇のプレッシャーの中、大会を勝ち切ることができた。1回戦の内容はあまりよくなかったが、東根一中との試合では自分達らしいプレーができた。途中、13点差で負けていたが、チーム一丸となって逆転し優勝することができた。今回の大会で見つかった課題をしっかり練習し、県北大会で優勝してきます。(男子バスケ部部長 佐藤陽太)

バスケ経験者が少ない中で県北の出場権を得たのは、チームワークがよかったからだと思います。ミスしても怒らずアドバイスし、1年生も1人1人が声を出し、励まし合いながらプレイしたことが、結果につながりました。課題も見つかりました。その課題に向けて真剣に向き合い練習したいと思います。とても充実した大会でした。(女子バスケ部部長 武田真宝)

バレーボールができること、保護者の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。大会会場に入れない保護者へ、せめて優勝の2文字を届けたいと思いました。優勝することができて、良かったです。県北大会では今回の課題を修正し、県ベスト4に向かって感謝の気持ちを忘れず、日々進歩していきます。(男子バレーボール部長 三原悠大生)



たくさんの課題を抱えて始まった新人戦だったが、ものすごく成長することができた。声もすごく出ていたし、点を取った時の声も大きかった。スパイクやサーブも決定率が上がり、流れを持てることができた。ただ、レシーブのミスが多かった。もっと技術を磨き、県北大会に行けない悔しさをばねに、リベンジできるよう頑張りたい！(女子バレー部部長 千田凜)

例年は人数が少なくほぼ県大会に行けませんが、今回は1人落ちることになりあせっていました。でも、あまり練習しませんでした。県大会へは行けませんが4位とは僅差、2位とは大きな差ができていました。何でもっと努力できなかったかと、正直悔しいです。努力した人との差を実感し、練習することの大切さを学んだ。(新体操部部長 高橋優歌)